

全国学力・学習状況調査結果（第6学年）

4月19日実施

1 結果概要

本年度調査対象となった教科は、国語科と算数科2教科です。またそれぞれ、A問題（主に知識）とB問題（主に活用）に分けられています。全国平均と比較した本校の状況は次表の通りです。

国 語		算 数	
A問題（主に知識）	B問題（主に活用）	A問題（主に知識）	B問題（主に活用）
全国平均と比べ 上回っている	全国平均と比べ 上回っている	全国平均と比べ 上回っている	全国平均と比べ 上回っている

2 正答状況からみた今後の課題

(1) 国語科……関連づけた読み書きの指導充実が必要

B問題は、全ての問題で全国平均を上回りました。A問題では、漢字の読み書きで全国平均を大きく超えた一方で、文章と表を関連づけて読んだり、根拠となる表現を指摘する問題で全国平均にわずかに届きませんでした。このことから、関連づけた読み書きの指導充実が必要と考えます。

(2) 算数科……計算式の意味や考えの根拠を説明する学習の充実が必要

A問題は全ての問題で全国平均を上回りました。B問題では、正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が4cm²小さくなるわけを説明したり、式の意味を書いたりする問題に弱みが見られました。このことから、計算式の意味や考えの根拠を説明する学習の充実が必要と考えます。

3 学力学習状況調査結果を受けて

課題に示した通り、国語科においては、今後とも継続して、基本的な漢字の読み書きの練習を十分にさせ、日常的に文章の中で適切に使うことができるようにすることが大切だと考えます。また、文章と資料を関連づけて読んだり、根拠を探し出したりすることを苦手としている児童がいることをふまえ、指示語や接続語、文末表現に注意するとともに、文と文つながりや構成を理解することができるように、スモールステップで学習を展開することや小グループで話し合ったり考えを書いたりする学習活動をより大切にしていきたいと考えます。

算数科においても同様です。基礎的基本的な理解を促す上でも、問題の意味を正確に捉えたり、数式の意味を言語化しそれを他者に説明したりする学習活動を増やしていくことが大切だと考えます。

今後とも、これまでに身に付けた基礎力を生かし、実際の生活で活用することができる「確かな学力」を身に付けさせることができるよう教職員一同精進いたします。

4 生活状況調査の結果と学力調査の関連について

学力調査と並行して質問紙による生活状況調査も実施しています。最後に、質問紙調査で明らかになった本校児童の際だった特長についてお知らせします。調査の結果、本校児童は就寝時刻が遅いという傾向が見られましたが家庭学習の時間は比較的長く、ゲームやテレビ、SNS等に費やす時間は短いという結果が出ています。家庭でも比較的多くの時間を学習に費やしているようです。加えて、関心を持ってニュースを見たり、読書をする児童も多いことがわかりました。その結果から、本校児童は一定の学習習慣が身についていると言えるでしょう。学校生活の面では、「学校に行くのは楽しい」「学校で友達と会うのは楽しい」と答えた児童の割合が高いことから、学校生活にも一定の満足感をもっていると言えそうです。

これらは、学習状況が全国を上回っている要因であると推察されます。今後とも、望ましい学習習慣、学校生活への満足感を高めるよう働きかけていきたいと考えます。